

# 水士里ネット氷見

第一回理事会にて滞納対策がまとまりました

第8号

発行所  
氷見市土地改良区  
〒935-0024  
氷見市窪 938  
☎0766-91-0083

平成二十年度第一回理事会が、去る五月三十日（金）午後一時三十分から、当改良区二階会議室で開催されました。案件は「賦課金等の滞納対策について」他一件です。冒頭、亀田委員長から、滞納対策検討委員会（委員長 亀田哲男理事長職務代理）の検討結果として、「滞納対策の必要性を再認識し、役員としての職責を果たすことからも積極的な対応が必要である。」旨の反省も込めた報告がありました。検討委員会からの報告書は策定の趣旨から始まり、滞納賦課金等の現状、滞納対策の必要性、役員の義務と損害賠償責任、タイムスケジュール等にも触れたもので、具体的な滞納対策が提案されていきました。提案された対策は一案ごとに検討を行い、今後取り組むべき「滞納対策」として最終的なとりまとめが行なわれました。その概要は次のとおりです。今後、役職員が一丸となつてこの滞納対策の推進に努めますので、総代各位にもご理解とご協力をお願い申し上げます。

この滞納対策検討委員会は、実効性のある滞納対策を検討し、その結果を理事会へ報告する内部組織として昨年十月に組織したものです。この間、二回の検討会議にご尽力を頂いた委員各位に改めて感謝を申し上げます。なお、同委員会には引き続き理事会の匿名事項として滞納対策の進行管理を担って頂くことになりました。

また、対策の一つである「職員の担当制」については、去る六月十二日付けで全職員に人事発令（兼務）をし、担当区域を割り振るなど事務局内の徴収体制を整えました。

## 1. 滞納額の回収対策

項目	内容
(1)滞納調書の作成	滞納者毎に滞納に至った経緯等の情報を整理すると共に徴収履歴を残す。
(2)訪問徴収の実施	徴収強化月間を設定し、役職員が一丸となつて訪問徴収を実施する。
(3)徴収体制の整備	役職員の連携強化と徴収体制を整備することから、全職員に一定地区を担当させる地区担当制を導入する。
(4)強制徴収の検討	国税 OB 等の専門家を嘱託雇用し、その助言による強制徴収の実施を検討する。

## 2. 滞納防止対策

項目	内容
(1)預金口座振替制の普及拡大	普及率等の目標数値や推進強化月間等を設定し、役職員が一丸となつて普及拡大に努める。
(2)新たな預金口座振替システムの構築	市内各金融機関の理解と協力の下、新たな振替システムの構築に努める。
(3)取扱い金融機関の拡大	振替指定口座は組合員の意向を尊重することから、取扱い金融機関の拡大を検討する。
(4)振込手数料の公費負担化	組合員負担の軽減と普及促進を図るため、振込手数料の公費負担化を検討する。



水士里（みどり）ネットは、土地改良区の変称です。全国公募の中から平成十四年十月に選定されました。「水」は農業用水や地域用水等を、「土」は土地や農地・土壌を、「里」は農村空間や農家・非農家の生活空間の意味です。また「水士里」は、豊かな自然環境から美味しい水やきれいな空気など清廉なイメージを表現するものです。

**氷見市土地改良協会通常総会が開催されました**

去る六月四日（水）午後二時三十分から、平成二十年度氷見市土地改良協会（会長 布子誠剛氷見市土地改良区理事長）通常総会が、全会員十七名参加のもと氷見市土地改良区二階会議室で開催されました。会議に先立ち、布子協会長の挨拶に引き続き来賓の荒屋氷見市産業部長様からご祝辞を頂きました。

提案された平成十九年度事業報告、収支決算及び特別会計収支決算について等の四議案は、いずれも原案の通り承認または可決され、午後三時三十分閉会となりました。

これに先立ち、去る五月二日（金）には、平成十九年度事業である先進地事例視察等の研修会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、市内四土地改良区及び事業実施工区から十八名が参加し、大門町で実施中の経営体育成基盤整備事業「串田・串田二期地区」及び「五位ダム」を視察しました。「串田・串田二期地区」では高岡農林振興センターの橋本和夫農地整備第一班長を講師に向かえ、基盤再整備の目的や工法等について説明をして頂きました。中でも二・五ヘクタール区画の広大な田が、高低差三センチメートル以内で整備されていることに参加者から驚きの声が上がりました。



広大な田の前に説明を聞く参加者たち

その後「五位ダム」に移動し、西田光雄ダム管理事務所長代理からダムの構造や氷見市への導水経路、管理システム等の説明がありました。五位ダムは氷見市内の約三千ヘクタールの恒常的なかんがい用水不足に対応するため、平成五年三月に建設されたもので、参加者はダムの概要やダム建設の条件として、水の使用期間が四月二十六日から九月五日までと定められていること等について認識を新たにされたようです。

**平成19年度収支決算**

● 一般会計 (単位:円)			
予算額	収入決算額	支出決算額	繰越額
1,550,000	1,438,032	1,187,233	250,799

◆ 特別会計 (単位:円)			
予算額	収入決算額	支出決算額	繰越額
3,895,000	3,902,231	457,000	3,445,231

**水分神社例祭**

去る六月十日（火）午後二時から、桑の院ため池水分（みくまり）神社の水まつり神事が桑院ため池受益内の集落代表者など関係者十八名参加のもと現地で行なわれました。布子理事長の「先人たちのご苦労に感謝すると共に、引き続き桑院ため池等の施設を守っていかねばならない。」旨の挨拶のあと神事が行なわれ、参加

**平成20年度収支予算**

◆ 一般会計 (単位:千円)			
本年度	前年度	比較	備考
1,293	1,550	△257	

◆ 特別会計 (単位:千円)			
本年度	前年度	比較	備考
3,446	3,895	△449	



今年の豊作を願う参加者

者一同、今年の桑院ため池及び上庄川流域一体の安全・安心と清らかな水による豊作を祈願しました。

ため池自然学習会の開催

去る六月二十六日（木）午後一時から、農業用水水源地域保全対策事業の自然学習会が、「桑の院ため池」及び「五位ダム」の現地で、速川小学校の四・五年生児童二十五名を対象に開催されました。

当日はあいにくの曇り空となりましたが、桑院ため池では、桑の院集落の大上小一氏から、ため池の建設から現在までの経緯を当時の話を交えながら説明して頂きました。児童達はこのような大きな池がほぼ人力で造られた事に大変驚いていました。次に、氷見市自然保護員の中川定一氏から、クイズ形式による「桑の院ため池」と周辺の動植物との関わりについての説明があり、実際にため池に生息する生物を捕獲し、観察しました。ブラックバス等を初めて目にする児童もいる中、外来魚が生態系に大きな影響を与えていることなど様々な問題を引き起こしていることの説明がありました。その後、「五位ダム」に移動し西田光雄ダム管理事務所長代理から、「五位ダム」の目的や構造、管理システム、氷見への導水経路等の説明がありました。また、氷見市に運ばれてきた水がどのように使用されているのかを、速川小学校の横にある「田江一号注水工」で、バルブ開閉操作によって学習しました。

児童からは、「沢山の苦労があつて毎日おいしいご飯を食べる事ができる」、「家の近くの田んぼで使っている水が、遠い所から運ばれてきていることに驚いた」等の感想が飛び交い、児童に農業用水と水源林との関わりを知ってもらおう実りある学習会となりました。



魚をすくって観察しました



五位ダムに初めて来ました

五位ダム物語が放映されました

氷見市行政チャンネルの自主制作番組である「五位ダム物語」の前編が、六月一日（日）から七日（土）に、また、八日（日）から十四日（土）には後編が、五チャンネルでそれぞれ放映（何れも三十分）されました。

この「五位ダム物語」は、昭和五十二年に着工以来、実に二十六年の歳月と四九五億円もの巨費を投じて完成した氷見地区の総合かんがい排水事業を、五位ダムの建設を通して紹介したものです。

前編では、五位ダムの計画から完成までの道のりを当時の氷見市の担当者として、また氷見市土

地改良区の役員として本事業に携わった奥村秀雄氏と供に苦労話を交えて振り返りました。

後編では、実際に五位ダムからどのように水が運ばれ受益地内の水田に配水されるのか、また、普段はあまり知られていない四月二十六日の水使用開始日の送水手順や機械操作の他、調整池や注水工等の維持管理の実態も現場取材で紹介していただきました。行政チャンネルには一昨年、市内の主要施設の紹介番組の中でも「十二町瀉排水機場」の設置目的や機能等を紹介していたたき、今回の「五位ダム物語」同様各方面から大変なご好評を頂きました。

今回の二週に亘る放映によって、市民の皆様には総合かんがい排水事業や五位ダム等の各種農業水利施設の色々な機能や役割等について理解を深めて頂いたものと思います。今後とも、各種の情報提供等を通して土地改良区の事業運営に関心を寄せて頂くよう努めます。

なお、まだご覧にならない方は視聴可能ですので管理課（☎九一〇〇八三）までご連絡下さい。



満々と水を湛える五位ダム

計画的な水使用にご協力下さい

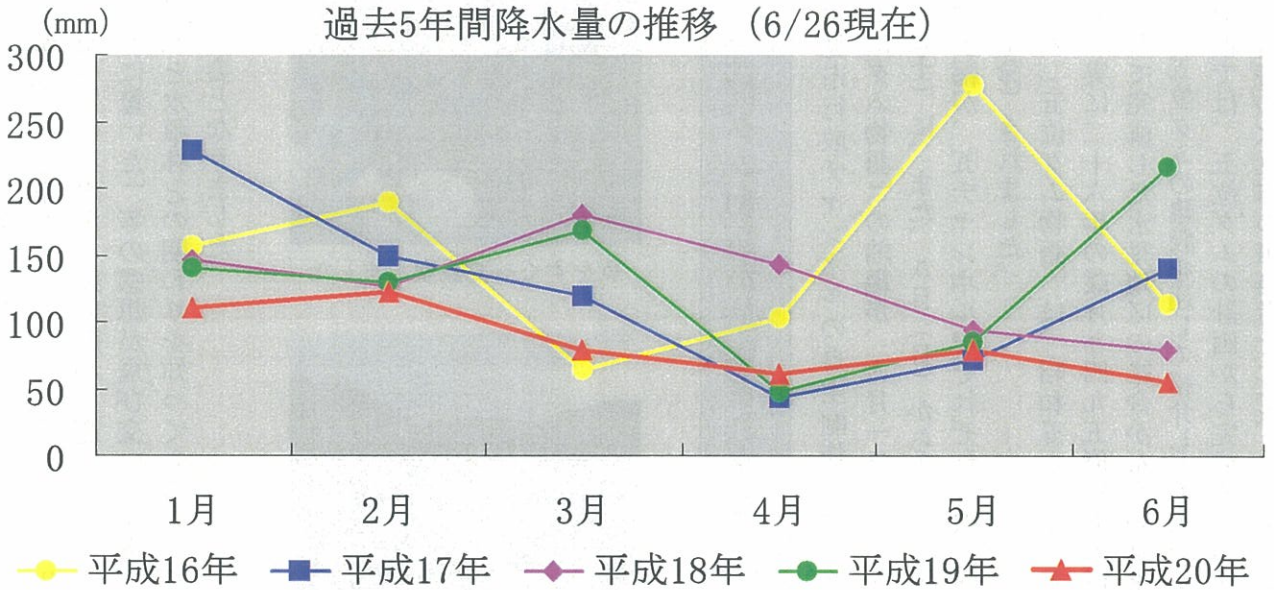
昨年は降雪量や四月～五月の降雨量とも非常に少なかったこともあり、五位ダムとの連携の下、早い段階から水不足への対応を講じたことから、組合員の皆様には直接ご迷惑をかけることなく収穫期を迎えることができました。

さて本年は、昨年以上に厳しい状況になりつつあります。下のグラフのとおり、年明けから六月までの降水量は過去五年間で最も少なく、また梅雨入りも六月十九日となり、平年の六月十日より大きく遅れました。従って、使用水量も過去最高使用量の昨年を十五・五ポイント（六月二十六日現在）も上回る勢いです。これは昨年同様、降雪量の減少による出水が少なかったこと等から、代掻き時の使用水量が増加したものと考えています。

今後とも、天気予報に基づく日々の送水量設定や各調整池のバルブ開度の調節等、細部にわたり適切に対応し、適正配水に努めてまいりますので、組合員の皆様方には計画的な水使用にご協力下さいますようお願い申し上げます。



過去5年間降水量の推移（6/26現在）



年間ゴミ処理台数の推移



※ 台数は積載量350kgの軽トラックを1台とする

河川ゴミの状況は？

十二町潟排水機場で除去される河川ゴミの量は、年間約三十トンです。近年はグラフのとおり除去量は年々減少傾向にありますが、ゴミ分別の細分化による影響からかガラス瓶やペットボトル等、中には古タイヤといった資源・不燃ごみが増加傾向にあります。

七月六日（日）には「市民一斉清掃」が実施されますが、天然記念物のイタセンパラ等が生息する水見市の自然環境を守る上からも、河川堤防の刈り取った草等、河川近辺のゴミ処理にご協力をお願い申し上げます。